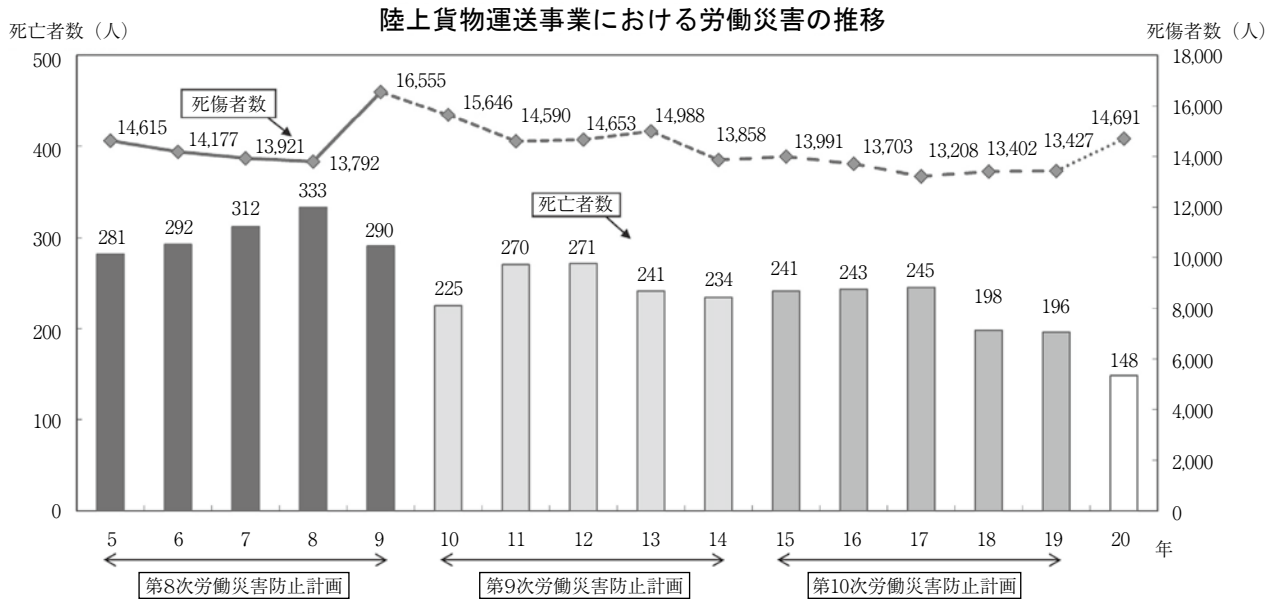


第1 陸上貨物運送事業における労働災害の発生状況と分析

1 労働災害の推移

陸上貨物運送事業における労働災害は、死亡災害、死傷災害とも長期的には減少傾向にあります。死亡災害は、近年大きく減少していますが、休業4日以上の死傷災害は、近年横ばいの状況にあります。

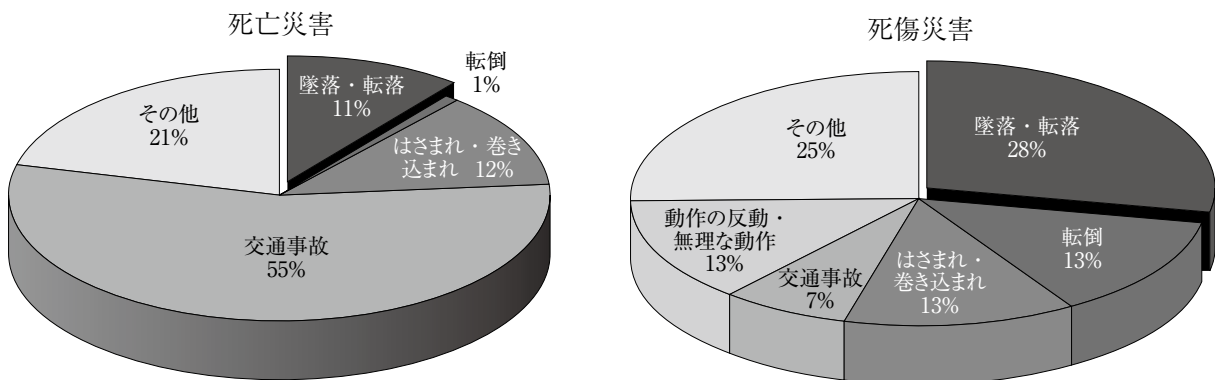


注) 死傷者数は休業4日以上のもので、「労災保険給付データ」及び「労働者死傷病報告(労災非適)」による。

2 事故の型別・起因物別の死傷者数の割合

陸上貨物運送事業における死亡災害を事故の型別にみると、「交通事故」が最も多く、全体の約6割を占めます。一方、休業4日以上の死傷者数を事故の型別にみると、「交通事故」は全体の1割程度であり、「墜落・転落」が全体の約3割と最も多くなっています。

陸上貨物運送事業における事故の型別労働災害発生状況(平成20年)



注) 死傷者数は休業4日以上のもので、労働者死傷病報告による。

「墜落・転落」による死傷者数を起因物別にみると、トラック、フォークリフト等の「動力運搬機」によるものの割合が最も高くなっています。

陸上貨物運送事業における事故の型別・起因物別の死傷災害発生状況（平成20年）

起因物 \ 事故の型	墜落・転落	転 倒	はさまれ・ 巻き込まれ	交通事故	動作の反 動・無理な動 作	その他	計
物上げ装置、運搬機械	20.6%	2.6%	6.6%	7.3%	1.7%	7.3%	46%
動力クレーン	0.4%	0.1%	0.7%	0.0%	0.0%	0.6%	2%
動力運搬機	20.1%	2.3%	5.8%	4.9%	1.6%	6.5%	41%
乗物	0.2%	0.2%	0.1%	2.4%	0.1%	0.2%	3%
その他の装置	2.4%	1.9%	2.9%	0.0%	1.3%	5.5%	14%
仮設物、建築物、構築物等	3.7%	6.5%	0.4%	0.0%	1.5%	2.2%	14%
荷	0.9%	0.8%	1.9%	0.0%	5.2%	5.0%	14%
その他	0.6%	1.3%	1.1%	0.1%	3.6%	5.0%	12%
計	28%	13%	13%	7%	13%	25%	100%

注) 死傷者数は休業4日以上のもの。労働者死傷病報告による。

3 災害要因の分析

過去の荷役作業時における墜落・転落災害をみると、次のような特徴があります。

- ・災害発生時に実施していた作業内容は、荷の積み卸し作業が最も多く、荷締め作業、荷のシート掛け・シート外し作業においても災害が発生していました。
- ・墜落災害は、トラックの荷台から最も多く、荷、あおり、トラック本体、フォークリフトのパレットにおいても災害が発生していました。
- ・作業手順書はあまり作成されていませんでした。
- ・保護帽を準備していない事例もありました。また、保護帽を準備していても、作業員が荷役作業中に保護帽を着用していなかったものが相当数ありました。また、準備されていた保護帽の中には、墜落時保護用ではなく、飛来・落下物用のものもありました。
- ・墜落した高さは、2 m未満等低い位置からのものが多くありました。
- ・荷台等の上を後ずさりして墜落したものが多くありました。

災害発生時に行っていた作業内容別にみると、次のような事例が多くみられました。

① 荷の積み卸し作業 → 災害事例・対策については、「個別の対策」の事例1を参照

- ・作業手順書を作成せずに発生した災害
- ・後ずさりして発生した災害
- ・あおりを固定せずに発生した災害
- ・滑って転落した災害
- ・危険な立ち位置から発生した災害
- ・荷台で荷の積み卸し以外の作業を行って発生した災害
- ・保護帽を着用せずに発生した災害

② 荷締め作業 → 災害事例・対策については、「個別の対策」の事例2を参照

- ・作業手順書を作成せずに発生した災害
- ・滑って転落した災害
- ・荷締め器具の不備による災害
- ・あおりを固定せずに発生した災害
- ・荷締め時にトラックが動いたために発生した災害
- ・保護帽を着用せずに発生した災害

③ 荷のシート掛け・シート外し作業 → 災害事例・対策については、「個別の対策」の事例3を参照

- ・作業手順書を作成せずに発生した災害
- ・荷の形状により足をとられて発生した災害
- ・後ずさりして発生した災害
- ・滑って転落した災害
- ・キャビン上の格納時に発生した災害
- ・保護帽を着用せずに発生した災害

④ フォークリフトによる作業 → 災害事例については、「フォークリフトの用途外使用の禁止」を参照

- ・フォークリフトの用途外使用による災害